

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール

— 経営学専攻夜間コース —

2015

- 企業家養成コース
- 国際経営コース
- 人材・組織マネジメントコース
- マーケティングコース
- アカウンティング・ファイナンスコース



法政ビジネススクール(HBS)で何が得られるのか

法政大学大学院経営学研究科長
近能 善範

毎日の仕事のなかで勉強の必要を感じている人たちは少なからずいます。例えば次のように感じたことはないでしょうか。

「金融機関で働いているが、一度ファイナンスや国際金融について本格的に学びたい」

「経理部に所属しているが、より高度な会計知識を身につけたい」

「人事の仕事をしているが、企業の人事政策のあり方について本質に立ち返って学んでみたい」

「営業を長年やっているが、マーケティングの観点から仕事のやり方を抜本的に考え直してみたい」

「社内で新規事業の立ち上げに携わりたいと考えているが、事業経営にかかわる知識が不足している。これを身につけ、チャンスを探りたい」

このような思いは、社会人ビジネススクールに進学された方々の動機でもあります。しかし実際には、多くの方々がこのような思いを抱きながら、ビジネススクール進学を断念しています。なぜでしょうか。こう尋ねられたら、ほとんどの人は「時間がないから」、「お金がないから」、「子どもが小さくてそうした余裕がないから」、といった理由を述べることでしょう。でもほんとうのところは、どれだけの効果が得られるのかよく分からないことが最大の理由なのではないでしょうか。

このパンフレットを手にとっている人の多くは、ほんとうのところ費用対効果に確信が持てないため、ビジネススクールへの進学を迷っているのではないかと思います。私たちは、そうした迷いは捨て、ビジネススクールへの進学を真剣に検討していただくべきだと思っています。

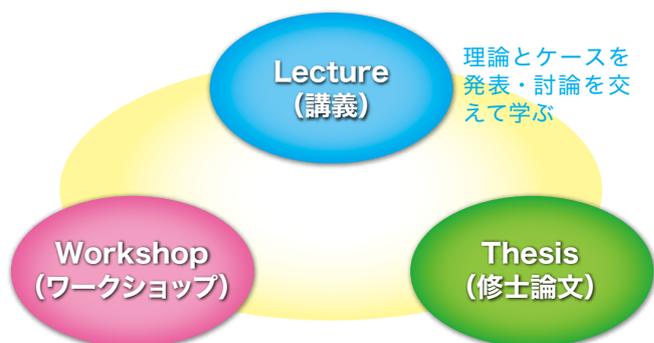
社会人のMBA教育にはいくつかの大きな利点があります。まず当然のこととして、高度な職業人となるための知識や技能が修得できます。さらに、企業の場合以外で付き合う学生同士のネットワーク形成も大きなメリットです。またMBA<修士(経営学)>という学位を取得することで、特に外資系企業などでは昇格の手がかりになることもあります。その結果として、昇給・昇格や起業成功などの実際的なメリットが生じることもあります。

しかし、こうした実際的なメリットだけが社会人ビジネススクールの良さではありません。では、それ以外のメリットとはいったい何なのでしょう

か。それは二年間という限られた時間で高度な専門知識を集中的かつ体系的に学ぶという経験をもつこと、それ自体なのです。こうした密度の濃い勉強体験を通じて、論理的に考え、説得的に話し、文章に書く訓練が繰り返し行われます。また、分析的思考や創造的思考が育成され、最終的には修士論文をまとめることで、修了後も自立的に学び続けられるようになります。さらには、こうした経験を通じて得られる<知>は、日々の業務の中ですぐに活用することが可能です。夜間のビジネススクールでの学びと昼間の仕事経験からの学びが連動することを通じて、問題を自ら発見し、答えを粘り強く追求し、得られた答えを論理的・説得的に説明できるようになる、しかもそうしたプロセスを苦もなく自然と継続していくことができるようになる、これこそがほんとうの意味での重要なメリットなのです。

法政ビジネススクール(HBS)の大きな特徴は、(1)実務経験と高度なアカデミズムの両方を体現した教授陣、(2)計5つのコースにわたる総合的な教育プログラム、(3)ゲストスピーカーを交えたワークショップを通じて実践的な教育、(4)修士論文を書くことで得られる高い論理性と自立的な勉強態度、(5)安価な学費設定と少人数での丁寧な指導、に集約されます。社会人ビジネススクールのほんとうの意味でのメリットを、最大の費用対効果で享受できる場だと言えます。一人でも多くの社会人の方々に、法政ビジネススクール進学を検討していただきたいと願っています。

HBSの教育の三本柱



実務家をゲストに迎えて
現実のビジネスを事例と
して学ぶ

教員のきめ細かな指導に
基づく研究活動



吉田 健二 教授

企業家養成のために、多様なカリキュラムを提供

企業家養成コースは、ベンチャー・ビジネス論の泰斗である清成忠男元法政大学総長のリーダーシップによって1992年に開講され、現在23年目を迎えています。本コースは、企業家として独立を志す人、既存企業の内部において新規事業を立ち上げようとする人、あるいは既存企業の後継経営者を志す人を対象にして、新規事業を起し、それをマネジメントしていく、いわゆる「企業家」を養成することを目的としています。このようなコースは、わが国において初めてのものであり、文字通り企業家養成のイノベーターだと言えます。

企業家を養成するためには、リスクの大きい新規事業のマネジメントについてのスキルを習得するべく、企業家としての心構えを理解させるほか、オールラウンドに様々な専門知識を関連づけて身につけさせることが必要不可欠です。企業家養成コースにおいては、企業家活動、企業家史、経営戦略論、ベンチャー・ファイナンス論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論などの科目が設定されています。これらの他に、マーケティング論、組織行動論、人的資源管理論、経営組織論、財務会計論、管理会計論、経営情報論、国際経営論など多様な科目が、他のコースにおいて履修できる仕組みになっています。さらに、経営学基礎、会計学基礎、ファイナンス入門、経済学基礎など、いわゆる基礎を学ぶ科

目も、学生の要望に基づいて設けられています。

企業家養成コースの大きな特徴として、「ワークショップ」という双方向形式の授業が取り入れられています。これは、毎回の授業時に企業家や特定分野の専門家を招いて、企業や事業を起こされた経緯や動機とそのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについて講義と質疑応答をお願いするものです。例えば今年度は「企業家の構想と実行」というテーマを設け、学生が積極的に質問して企業家の生の声を聞き出すようにしています。学生は2年間の在学中に20名程度の企業家の話を聞くことになるので、ワークショップから受ける刺激はとて大きなものになります。私自身も、毎回経営全般についていろいろと考えさせられます。

学生は年齢、職種、業種に関して様々です。毎年、多様な経歴の社会人が企業家養成コースに集まります。授業を離れてもいろいろな交流を通じて繋がるネットワークは、卒業後も大切な財産となるでしょう。



● 教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
稲垣 京輔 教授	起業家間の関係構築と地域コンテキストの再構成プロセスに関する研究	企業家活動、企業家養成演習
金 容度 教授	日本経営史、日本経営論	企業間関係論、企業家養成演習
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション	イノベーション・マネジメント概論、ワークショップ、企業家養成演習
福島 英史 教授	企業戦略と技術革新に関する研究	※今年度は特定の科目を担当しません
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	経営戦略論、企業家養成演習

● MBA修了生・現役生の声

決断力を鍛えて、一生の企業家なかまを作る

私はeマーケットプレイス（インターネット上の企業間取引市場）を主事業とする会社を経営しております。会社の成長に伴って、意思決定の範囲が広がり、意思決定のプロセスも複雑化するなかで、それまでの「経験と感覚での経営」から脱皮し、経営理論をより体系的に学びたいと考え、私はHBSの企業家養成コースに飛び込みました。

HBSに在籍した2年間で、私は数多くの貴重な経験を得ましたが、特に、ここでは二つのことを挙げたいと思います。ひとつは、企業家養成コースで繰り返し学んだ意思決定の方法についてです。企業家は企業の理念とビジョンを組織に浸透させ、実行に移さなければなりません。さらに、こうした企業理念とビジョンに基づき、限られた時間の中で意思決定しなければなりません。企業家養成コースでは、知識やフレームワークの習得はもちろんのこと、ケースメソッドの授業、グループワークとディスカッション、修士論文の作成など、様々な学習方

法が設けられており、限られた時間で情報を整理・分析し正しい判断を下す方法を体系的に学ぶことができました。

もうひとつの貴重な経験は、「同志」との出会いです。企業家養成コースには、広い意味での企業家を志して、ビジネスの第一線で活躍する多様な人たちが集まります。そのなかまたちと切磋琢磨しながら共に成長し、生涯にわたる同志としての関係を築くことができます。そのネットワークは、起業やビジネスアライアンスに直結することもあります。

経営は不確実性との戦いとも言えます。私は在学中に経営理論を学び、なかまとディスカッションし、それを即座に実践していきました。HBSでの経験は、経営環境の不確実性が増大するなかで企業を永續させるために、終生学び続けなければならないということを実感させてくれた、未来への第一歩であったと感じています。

山田 成徳 (2011年3月修了)
株式会社バリュー・クエスト 代表取締役社長





李 瑞雪 教授

グローバル化が進むなかでの企業経営を考える

国際経営コースは、「人材、マーケティング、会計など他分野の“国際的側面”を研究するコース」という設置コンセプトをイメージして作りあげられました。コースの設置以来、幅広い分野で活躍する修了生を輩出してきましたが、そのなかで、当コースでの研究を土台として海外現地法人などに赴任し、グローバルに活躍する修了生が多数出てくるようになりました。修了した後もOB/OG組織「HIB Club」を通して情報交換がなされ、修了生同士の結びつきは広がりを見せています。

企業を取り巻く環境は、当コースが設置された当時とは大きく変化しています。そのうちの1つが、経済のグローバル化です。ヒト・モノ・カネそして情報が国境という壁を越えて自由に移動するようになりました。グローバル化の進展により、規模や業種にかかわらず、今や海外との結びつきに無縁でいられる企業はないと言ってもよいでしょう。この意味で、国際経営を学ぶ重要性はますます高まりつつあると言えます。個人のレベルでもグローバル化の影響を避けることはできません。企業経営に関する知識を身につけることはもちろんのこと、それをベースにグローバルに活躍するための能力を養っていく必要があるでしょう。当コースで学ぶ国際経営の理論と皆

さんの実務経験が融合されることで、グローバル・マネージャーとしての能力を養っていただけるのではないのでしょうか。

大学院教育は、それがアカデミック志向なものであれビジネス志向のものであれ、学部教育のような「教員＝教える人、学生＝教えられる人」といった一方通行の関係であってはならないと思います。ビジネススクールの教育のあり方は、当然これとは異なります。当コースで実践されている大学院教育を、「自動車の開発技術者とテストドライバーの関係性」に例えて理解すると分かりやすいでしょう。抽象的な理論に詳しい「開発技術者」つまり当コースでいう教授陣と、実際の現場で五感を研ぎ澄ませながら問題を解決していく「ドライバー」つまり社会人院生の双方向のコミュニケーションが、理論と実務経験の融合をより高次のものへと高めていくのではないのでしょうか。



● 教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
安藤 直紀 教授	海外子会社の経営戦略、新興国経済での経営戦略	国際経営論、国際経営演習
藤澤 利治 教授	EU 経済統合に関する研究、統一ドイツ経済の分析	地域経済研究 [EU]、国際経営演習
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資	国際経営論、国際経営演習、ワークショップ
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究	国際金融論、国際経営演習
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略	国際物流論、国際経営演習、ワークショップ
高橋 理香 准教授	貿易政策の効果に関する理論および実証研究	国際経営演習

● MBA修了生・現役生の声

大学院生活と自身のキャリアディベロップメントへの活かし方

齋藤 優介 (2012年3月修了)
日本オーチス・エレベーター株式会社勤務



私は、システムエンジニアとして社会人をスタートさせ、会計システムの開発に携わったことをきっかけとして会計に興味を持つようになり、職種を経理職へ変更し現在に至ります。意識的にIT、会計と2つの業務領域を深めていくことを通じて、経験・知識・スキルを増やしてきましたが、ITも会計も企業経営の中の1分野であるため、学んだ分野を見直す意味でも経営学を学んでみたいという思いが強くなり、大学院へ通うことに決めました。また、外資系メーカーに勤めているので、働く場所が日本でなくても活躍できるような人材を目指したいと考え、いくつかあるコースのなかで国際経営コースを選択することにしました。

久しぶりの大学生生活は動きながらのチャレンジであったので、1年目で卒業に必要な授業単位を全て取得し、2年目は修士論文の執筆作業に集中する戦略をたてることで、無事2年間で卒業することができました。これも丁寧にご指導くださった先生方や、励ましあえる同期の存在が大きかったと感じております。

大学院の授業のなかで実務家として活躍されている方のお話を聞くことができるワークショップは、仕事の躍動感を感じることができるのと、数人でチームとなり共同作業を通してプレゼンテーションを発表する機会もあり、学生同士の結びつきを強くすることができたので、楽しく有意義な時間であったと感じております。

大学院を卒業するのとはほぼ同時期に主要部門へ異動することが決まったので、今後は大学院で学んだ経営学を活かし、会社の経営を踏まえた上で業務にあたっていきたいと考えております。大学院で学ぶ経営学の成果は、即効性のある資格やスキルとは違い、長い期間のなかでリターンのある投資となると思うので、これから進学を考えている方は、それを考慮の上で自身のキャリア構築に組み入れることができれば、有意義な大学院生活を過ごすことができると思います。



長岡 健 教授

人材と組織の課題について考える人のために

人材と組織のマネジメントは、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどと並び、欧米をはじめとするビジネススクール(MBA)のカリキュラムの柱です。人材と組織のマネジメントに関わる実務上の課題の多くは、組織のふるまいと個人の意識や行動とのあいだの緊張

関係のなかにあります。わたしたちの人材・組織マネジメントコースは、そうした課題の解決策を、事実にもとづく議論と理論的な考察をつうじて見出そうとする人のためのコースでありたいと考えています。人事担当者だけでなく、職場マネージャーや第一線で働く社会人として、人材と組織の課題について考える人たちが、わたしたちのコースで学んでいます。

人材・組織マネジメントコースでは、人材(Human Resources)と組織(Organization)の分野の研究者を専任教員として多く配しています。教員の学問的バックグラウンドは、経営学、経済学、社会学、心理学と様々です。このことは、皆さんが、幅広い視点から人材と組織の管理について考える理論的な知識や思考を学びとるのに役立つはずですが、実務経験をもつ教員も多く、みな実証的な調査研究をつうじて実務に関わっています。

本コースのもうひとつの特徴は、丹念な修士論文指導にあります。個別に論文指導を行うだけでなく、コースの教員全員が協力して、論文構想

発表会や論文中間発表会、最終的な論文指導までを行い、多様な見地から丹念な指導にあたっています。毎年、コースの社会人大学院生の皆さんが、修士論文の執筆に真剣に向き合い、多数の優れた論文が生まれています。その成果の一部は『プロフェッショナルの人材開発』『女性の人材開発』『雇用形態の多様化と人材開発』(キャリア研究選書、ナカニシヤ出版)として出版されています。

もちろん、本コースでは、教員が一方的に教えるというわけではありません。皆さんが大学院で学び、修士論文を作成するプロセスは、自ら実践的な研究課題をみつめるところから始まります。研究課題に照らし、過去の研究の蓄積を吟味し、情報収集と理論的考察を行い、具体的でかつ普遍性のある答えを見出していきます。わたしたち教員は、それをきめ細かくサポートしていきます。このような本コースでの経験は、皆さんの組織における実践とキャリアにきっと活かせるはずです。



●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析・国際比較	人事制度論、人材・組織マネジメント演習
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	経営情報論、人材・組織マネジメント演習
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	労働市場論、人材・組織マネジメント演習
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用ポートフォリオ	人的資源管理論、人材・組織マネジメント演習
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー	経営組織論、人材・組織マネジメント演習
西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	組織行動論、人材・組織マネジメント演習
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織文化、採用活動	※今年度は特定の科目を担当しません

●MBA修了生・現役生の声

専門性を高め、視野を広げる環境

私は顧客企業の課題に応じた研修カリキュラムを企画し、提供する業務に就いていました。研修だけで組織を改善していくことへのジレンマがあり、人事の諸制度までを包括的に考えられるようになりたいと、専門知識を求めて大学院へ進学を決めました。

HBSを選んだのは、人事や組織に関する専門領域を網羅的に学べる専門コースと、それ以外の分野についても学べる環境が整っていたからです。入学後は人材・組織マネジメントコースに所属しながら、他コースの授業を履修することで、視野を広げて自身の業務を捉え直すことができたと感じています。企業の中にはなかなか出会うことができない多種多様な考え方や向き合う場は、新たな知見を得るよい機会となりました。自身の専門分野をしっかりと学びつつ、他分野との視点の違いを得る機会が多いのも、HBSの大きな醍醐味であると思います。

神谷 俊 (2014年3月修了)
株式会社マイナビ勤務



一方で会社と大学院、2つの役割を同時にこなしていくことは大変な部分もあります。多忙な業務に学習時間をとられてしまうことは多々ありました。両立させることは大変でしたが、学習時間を確保するために仕事の効率を考えることは自身を前向きにするものであり、双方のモチベーション向上にも繋がっていたと思います。また大学院で学ぶ内容と業務で実践する内容に関連があったため、忙しいながらもよい循環を創り上げることができ有意義な時間を過ごすことができました。

現在では、HBSで学んだ専門知識を活用し人事コンサルティング事業を社内でも立ち上げ、顧客企業の課題に深く根ざしながら組織の改善に取り組んでいます。視野の広がり、専門知識の修得、異なる視点をもった人との対話等、HBSで学んだ多くの要素が今の業務に活用できていると感じています。

マーケティングコース



新倉 貴士 教授

マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ちながらも、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目

目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、研究課題を磨いていきます。このことが、今までにない面白い研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらには、2年次の先輩や卒業生も多くのアドバイスをしてくれます。これらの体制が円滑に進むように、1年次のオリエンテーション後に、先輩や卒業生が歓迎会をすることが恒例となっています。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのない友人づくりにもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。

皆さんの新しい研究課題に出合えることは、我々教員にとってもとても楽しみです。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。



●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
木村 純子 教授	農産物マーケティング、消費文化論	サービス・マネジメント論、マーケティング演習
小林 健一 教授	広告論、コーポレートコミュニケーション論、CRM	ワークショップ
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動	マーケティング論、マーケティング演習
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	製品開発論、マーケティング演習
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	消費者行動論、マーケティング演習
西川 英彦 教授	インターネット・マーケティング、ユーザー・イノベーション	マーケティング・リサーチ論、マーケティング演習
矢作 敏行 教授	流通イノベーション、小売国際化プロセス、流通史、マーケティング理論	流通システム論、マーケティング演習

●MBA修了生・現役生の声

独学の壁を超える、密度の濃い日々

小南 陽子 (2013年3月修了)
証券会社勤務



私は法政大学国際文化学部を卒業した後、証券会社に就職し、営業企画に携わっています。業務上の必要があり、統計学やマーケティングを独学していましたが、独学には限界があると思うようになりました。そこで、実務にも精通した教授陣からマーケティングを体系的に学び、他の学生との議論を通じてさらに理解を深めたいと考えるに至りました。

他校に比べ、HBSは学費が驚くほど良心的ですので、経済的な不安はありませんでした。ただ、社会人であるため、「働きながら2年間も通えるのか」などの不安がありました。そのような折にHBS卒業生に相談したところ、「HBSなら単に講義を受けるだけでなく、修士論文という形で自分の考えを世に問うことができるから、本当の意味での知恵が身につく。さらに苦楽を共にする仲間もできるし、現役生と卒業生のつながりも強い。大変だけれど、HBSにはそれだけの価値がある」と、背中を押してもらいました。

HBSには修士論文のような高度にアカデミックな面がある一方で、フィールドワークで実際に自分の目で見て考えるといった、より実地に近い授業もあります。ワークショップでは、多様な企業・業界の方から普段聞くことのできないようなお話を伺う機会も得られます。また、予習の時点では自分の考えに落とし穴があることに気づかないものですが、授業で先生やクラスメイトと議論してみると、いかに自分の考えが浅かったのかを思い知らされることもあります。全て独学では成し得なかったことです。

私はHBSに入学して、「人生が2倍になった」と感じました。それは2人分の人生を生きているかのような、密度の濃い日々を過ごすことができたからです。皆様もぜひ、HBSで学んでみませんか。

アットホームな雰囲気とマンツーマンの研究指導体制



山崎 輝 准教授

HBSアカウントニング・ファイナンスコースの特徴は、多様な研究領域の教授陣が揃っている点です。「会計とファイナンス」という大きな枠組みのなかに、財務会計論、管理会計論、税務会計論、経営分析、基礎ファイナンス、財務戦略論、企業評価論といった多様な

専門科目を幅広く設置しています。大学院での講義はアットホームな雰囲気のなかで進められ、質疑応答などが非常にきめ細やかに行われます。大学院では、理論的な説明ばかりでなく、ワークショップの授業では他の企業の実務などに触れられる機会も提供しています。

2年次に行われる修士論文の研究では、それぞれの社会人院生が、自らの研究テーマに最も近い教員のもとでマンツーマンの指導により論文を執筆します。さらに、関連した研究領域の教員、また研究方法でアドバイスを与えることのできる教員が必要に応じて入れ替わり立ち替わりサポートを行います。

大学院での学習において社会人院生の方に期待したいのは、大学院で学習する理論と皆さんの実社会での経験を常に比較して考えていただきたいということです。私自身も十数年間民間企業で働いていましたが、実社会の変化のスピードは非常に速いので、今では社会人院生の方から聞く現場の情報がとても新鮮に感じられます。会計やファイナンスの研

究テーマは皆さんの日常業務のなかに潜んでいることも多く、実務の現場を知っている社会人院生は大きなアドバンテージを持っているはずで

す。その一方で、社会人院生の方に学習を進める上で気をつけていただきたいこともあります。理論を学んでいる時に、自社の状況だけを考え、「実際の現場ではそのようなことはありえない」という考えを持ってしまうことです。理論は多くの企業の実務から共通部分を抽出し、またいくつかの基本的な仮定に基づいて組み立てられる性格を持っています。理論でいわれていることと実務を常に比較して考えていくことで、理論のいっそう深い理解が可能となることもあります。また、理論と実務とのギャップの認識をきっかけとして、思わぬ発見があり、そこから新しい理論が生まれる可能性もあります。そういう一連の過程を皆さんと一緒に経験しながら、現実にある様々な問題を深く掘り下げて考えていくことが、社会人大学院での研究の醍醐味だと思っています。

皆さん、アカウントニング・ファイナンスコースで一緒に研究しましょう！



●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
大下 勇二 教授	フランス会計制度研究、持株会社の会計と課税の問題	税務会計論
神谷 健司 教授	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究	アカウントニング・ファイナンス演習
菊谷 正人 教授 <small>(イノベーション・マネジメント研究科アカウントニング専攻)</small>	国際会計論、税務会計、租税法	国際会計論
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還	ファイナンス入門、アカウントニング・ファイナンス演習
金 瑠晋 教授	実証ファイナンス、企業の財務意思決定	財務戦略論、基礎ファイナンスII、アカウントニング・ファイナンス演習
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究	会計学基礎、監査論、アカウントニング・ファイナンス演習
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算	財務会計論
福田 淳児 教授	MCS の設計と組織学習、スタートアップ企業における MCS の発展	管理会計論、アカウントニング・ファイナンス演習
福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析	経営分析
八重倉 孝 教授	会計研究方法論、会計情報による企業評価、業績報告	企業評価論
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的分析、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	ワークショップ
北田 皓嗣 准教授	サステナビリティ経営戦略、エコ・プロダクツ、MFCA	ワークショップ
山崎 輝 准教授	金融工学、数理ファイナンス	基礎ファイナンスI

●MBA修了生・現役生の声

刺激的なHBS

教育の現場で充実した日々を送っていた私は、その一方で会計学を学びたいという思いを抱いていました。私が最も関心をもっているのは、地方自治体が行う会計、医療法人会計、学校法人会計等、いわゆる公会計といわれる分野です。公会計を理解するためには、まず企業会計の理解が必要不可欠であると考え、HBSへの入学を決意しました。

入学後は驚きと感動の連続でした。HBS教育には3本柱である、講義・ワークショップ・論文作成があります。講義は、院生による発表内容について理論とケースを交えながら受講者全員で討論することにより、問題解決能力を高めていくものでした。これはビジネススクールの核心部分であり、刺激的なものでした。また、「政策法務論」・「地方財政学」等、私が興味を持っている講義を研究科・専攻・コースを越えて履修が可能であることも大きな魅力でした。ワークショップでは、第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義と、そ

高江洲 司 (2014年3月修了)
学校教員



の講義後のディスカッションがありました。ゲストが大学教員の場合、高度な会計理論の講義があり、会計学の学問としての深さに感心しました。またゲストが実務家の場合、企業経営の真髄に迫る内容の時には感動さえありました。

HBSは修了要件として修士論文を要求しています。ビジネスの場でご活躍されている人にとって自分の考えを深く検討し、さらに論文としてまとめる機会は皆無に等しいと思います。自ら問題点を発見し、その問題に対する解決方法を深く追求し、最終的に論文という形で表現するということは、アカデミズムの世界に触れる最良の機会であり、最も意味があることと思われれます。

仕事の後、疲れきった状態で講義に出席したことも度々ありました。しかし、HBSは刺激的で最高の環境を提供してくれます。私は先生方や院生達と共に充実した素晴らしい時間を過ごせたことに感謝しています。

法政ビジネススクール コース共通科目

各コースが提供する高度な専門教育の理解と実践への応用のためには、ビジネス全般に関する基礎を理解することも重要です。

そこで、法政ビジネススクールでは、「コース共通科目」として、経営学、

会計学、経済学、統計学、情報科学に関する基礎科目や、産業、日本経済等に関する科目を設置しています。

●教員紹介および担当科目

教員名	研究テーマ	担当科目
児玉 靖司 教授	データマイニング、情報システム設計論、モデルチェックング	情報学特論
鈴木 武 教授	ベキ乗則の成立条件	統計データ解析
豊田 敬 教授	不平等解析、決定理論	統計学
入戸野 健 教授	Web データ解析と集合知、確率的シミュレーションモデル	e-ビジネス論
林 直嗣 教授	金融とマクロ経済の理論的・実証的・政策的研究	金融論
平田 英明 教授	日本の景気変動、日本の金融システム、期待形成と経済政策	※今年度は特定の科目を担当しません
宮澤 信二郎 准教授	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について	経済学基礎

法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について

経営学研究科
経営学専攻

- 昼間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))
- 夜間コース
 - 修士課程 (授与学位: 修士(経営学))
 - 博士後期課程 (授与学位: 博士(経営学))

<昼間コースのご紹介>
経営学専攻には、法政ビジネススクール(夜間コース)のほか、研究者養成を主な目的とした昼間コースもあります。昼間コースについて詳しくは、『法政大学大学院入学案内2015』の紹介(経営学専攻は48~51ページ)や、法政大学大学院経営学研究科のホームページ(<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/keiei/index.html>)をご覧ください。

法政ビジネススクール

<博士後期課程夜間コースのご紹介>
法政ビジネススクール(経営学専攻夜間コース)には、MBA(経営学修士号)を取得できる修士課程のほか、同じく働きながら博士の学位を取得することが可能な「博士後期課程夜間コース」があります。博士後期課程では、博士論文の提出に向けて段階をふんで進んでいくステップ制を取り入れ、指導教員・副指導教員による個別指導と経営学専攻としての教育・学習とを組み合わせ、博士學位取得をサポートしています。

学費(年額)のご案内	修士課程	入学金 140,000 円 (入学時のみ)	授業料 530,000 円	教育充実費 60,000 円
*本学出身者は入学金が免除となります。	博士後期課程	入学金 140,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

■法政大学大学院へのアクセス

- 東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅下車徒歩2分
- JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線
市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分



■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務部(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市ヶ谷町2-15-2 TEL.03-5228-0551~0552 FAX.03-5228-0555 E-mail: hgs@adm.hosei.ac.jp

法政ビジネススクールホームページ <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>